

は、春と秋の二回だったが、最近では春だけになった。金華山の山頂にある祠は、平成七年に小綱木沢、後沢大柴等の講中一同が扶持料（掛け金）により木製から石製の祠に替えられた。この金華山信仰については地元菅野彦治さんや菅野吉和さんが詳しく語ってくれた。

ここでいう「金華山」は、花塚山頂の南方六百メートルのところにある、標高八百五十三メートルの山で、吾妻・安達太良連峰の眺めがすばらしいところである。金華山に行くには、国道一一四号線、小綱木沢から東に約一キロ程進みT



左から「花塚山」「月山」「金華山」

字路を左に進む。消防コミュニティセンターの前を通り、次のY字路を右に進む。（このY字路を左に進むと花塚山頂に行く）五百メートルほど進むと、三軒の民家が見えてきて、一番奥の鈴木新一さん宅前の角から歩いて十五分ほどで鳥居に着く。ここから本格的な山道を三十分ほど登ると金華山の頂上に着く。この辺の登山道は、地域の方々が手入れしているので、汚さぬように特に注意したい。

飯坂の山谷という所には、昔三軒の農家があった。その内の一軒で、子供が神隠しにあった。村中が大騒ぎになり、方々探したが見つからず途方にくれた。その時一本歯の下駄の跡が霧伏沢の方に続いていた。それを追って行ってみると、霧伏沢の峠、天狗の庭の石の間に元気な子供を見つけた。親は大喜びをしたという。花塚山には、天狗が住んでいて、護摩壇の岩を積んだといわれている。